

ごみ問題特別委員会で不採択 4対3（8名で構成）

「ごみ処理広域化」を求める当会からの請願

請願第21-3号「ごみ処理広域化を葉山町として直ちに実施することを求める請願書」署名人数 7,801名（22年1月現在）は、3月9日(火)午後1時半から開かれたごみ問題特別委員会で、賛成少数で不採択となりました。

金崎委員長は、委員会では採決に参加できません。

各委員の賛否

不採択 4名 近藤、畑中、森、山梨

採択 3名 伊東、加藤、鈴木友一 の各議員

まだ本会議での全員による採決が残っています。

これからの議会での手続きですが、17日に委員長報告文をまとめた後、24日の本会議で、委員長報告の後、採決となります。
可否同数、議長裁決の可能性もあるかもしれません。

3月24日(月) 一般質問終了後、各委員会からの付託案件の報告、採決。

ここで、「ごみ広域化」の請願の採決も行われます。

これからの 議会日程は、この報告の最後にありますので、御都合が合えば、議会の現場に足をお運びください。

議会傍聴メモ

- * 委員会の現場で、傍聴されていた方々のメモです。
メモのため、発言の全文ではありません。
委員会の議事録は、後日議会ホームページ上でも公開されます。

ごみ問題特別委員会での採決を見守った方々からのツイッター（呟き）

議員の発言メモ（順番は入れ違っているところもあるかもしれません）

- 畑中議員： “2市と和解して”とある請願を認めることは
賠償金を払ってもよいとの意思表示ととらえられる。
裁判に不利。町民にとって損害をもたらすことになるので
反対。
- 近藤議員： 1. 47億円の訴訟を受けている。裁判に不利となる方向に
向かうことはできない。町長が引き起こした裁判といっても
町が訴えられた。もし負けたら町が払うことになる。町に損害を
及ぼすことはできない。
- 山梨議員： 陳情の趣旨、背景も理解しているが、現段階では、裁判の証拠資料と
なる。町の負担となる事には賛同できない。
否決する。
- 伊東議員： 和解という言葉が問題となっているが、珍しい、めったにないといわれる
自治体間の訴訟でかつ信義則が争点。その原因は町長の対応。きちんと
すれば起きなかった裁判。 和解がうんぬんいわれるが、今後の事を
考えれば、一定の和解金を払ってでも早急に解決することが町民にとっ
ては真の利益になると考える。

採択したい。

加藤議員： 議会が多数決をもって広域継続の陳情を採決したのを、町長が無視して引き起こした裁判。裁判は裁判で進める、町のごみ処理広域化それとは関係なく進めることにしたい。

採択したい。

傍聴者の呟き 1

請願の紹介議員の一人、伊東圭介議員がいわれる通り。このまま町のごみ処理問題を放置しておくわけにはいかない。早急に取り組む必要がある。

町長が真に町民にとって大事なのかを比較、検討もせず、また、町民の意見も確認せず、広域を離脱した、町にとって色々な面で尊重しなくてはならない近隣自治体に対し、信義則にもとる行為から起こった裁判。

上記の請願に反対する議員（森議員も含め）は、

- ・ そのような町長が引き起こした裁判ということを忘れ、一向にごみ処理経費が下がらない
町長の実ののないごみ処理政策を結果的に後押ししている。そして、
- ・ 近藤議員のように、万が一、町が負けた場合、町長に代わって町が負担することもやむを得ないと意思表示をしているともいえる。
- ・ 真に町民の利益となることが何かがわかっていない。

さらに

- ・ 彼らは緊密な関係を持たなくてはいけない2市と、愚かにも町長に同調して対決姿勢を 強めて行くことを表明してしまったことになる、

かつ

- ・ 本請願に署名した約 8,000 名の署名者の意思も無視してしまったことを認識していない。

このような議員さんたちに葉山の将来を任せる事に非常に不安を抱く。

ごみ特別委員会傍聴記

21-3号 請願書の審議から

近藤議員：広域処理を議会として決めると裁判に影響する。来年の5月裁判のめどが立って採決すべきでは。

山梨議員：継続、否決でなく、来年冬に結論を出すべき。

伊東議員：私は署名した議員としてごみは広域処理にすべきである。広域処理にすべきと8/17に2312人、平成22年1月に7801人の署名があり、これは無視できない。町の弁護士は広域処理に異論の弁護士である。議会として決めるべき時期にある。

鈴木知一議員：広域処理にすべきだ、議会の総意であったはず。

森勝美議員：ごみの広域処理ではごみは減らない、大量生産大量消費でごみを減らさないで、大量にごみを出す処理で賛成できない、裁判に大きな影響がある。

加藤議員：広域処理にすべき、単独処理はごみ処理を自区内で処理を完結することであり、当町では不可能、必ず広域処理に移る。裁判と分けるべきである。

継続審議：森・山梨の2人だけ。

休憩 2時から審議

近藤議員：和解は金を払うことになる、町に損害を与える。我々も広域処理を検討しているが、今議会の意志で言うべきではない。

山梨議員：裁判の事を考えなければ広域処理が良いと思う、但し2市1町でない広域処理、しかし、不利になるので1年延ばす。

伊東議員：ゼロ・ウェイストではごみ処理費は削減できない、早く決着し、採決して欲しい。

採決：賛成 鈴木・加藤・伊東

反対 近藤・森・畑中・山梨各議員

3：4で不採択

20-30号 ゼロ・ウェイスト宣言 まだ早い 継続審議

20-31 陳情 「2市1町ごみ処理広域化と自区内処理の事業計画との比較を早急に町民に説明することを求める陳情書」

近藤議員：広域処理協議会に復帰する事は1日に10t車が50台走り、処理施設整備に膨大な金がかかり2市1町に戻るべきでない。試算も疑問

伊東議員：陳情内容を受けて試算して、早く比較検討すべき、了承する。

畑中議員：復帰できない、環境課が試算できないと平成20年11月31日に言っている。

山梨議員：事業計画の趣旨は了承する。

森勝美議員：復帰できない、ごみを減らせば良い、焼却炉はバグフィルターをつけたので6年もつ。老朽化してない。

加藤議員：趣旨 了承

鈴木議員：賛成 趣旨 了承

採決 4：3で趣旨了承

賛成 伊東、加藤、鈴木知一、山梨各議員

反対：森・畑中・近藤各議員

傍聴者の呟き 2

久しぶりにごみ特別委員会を傍聴させていただきました。

伊東議員・鈴木知一議員・加藤議員の意見は、一貫して葉山では自区内処理は不可能であり、ごみ処理費を削減するため、ごみ広域処理に移るべきとの意見でしたが。

山梨議員は将来を考えるとごみ広域処理しかないと考えるが裁判中であり、現在はごみ広域処理に賛成できないとのこと。

森議員はごみ広域処理は大量生産大量消費の産物であり、大量にごみを出させる広域ごみ処理に賛成できないとの発言、ゼロ・ウェイストでごみが減ればよいとのこと。

近藤議員は一貫して裁判中であり今議会でごみ処理広域化を決議すると裁判に不利になるとの意見、将来はごみ広域処理が必要か検討中とのこと。

畑中議員は近藤議員と同じ意見のようでした。

ゼロ・ウェイストだけではごみ処理コストが下がらないのに、ごみがゼロになれば焼却炉も埋め立ても要なくなると夢だけ見て、町民にだけ押し付けている現実を見ないで、今の町の財政難を直視していない議員が多いことに驚きました。

議員の方は町民を代表し、町の行政が真に町民のためになっているかとの観点から行動されているのでしょうか、各議員の支持者の意見は聞くがそれ以外の人の意見は聞けないということがあってよいのでしょうか。

裁判とは別に、年数億円ムダに使われている現実を見て、ごみ処理費を計画的に削減する施策を真剣に討議・実現してほしいと感じました。

議会傍聴者の呟き 3

請願を採択した方が町にとって得策と考える理由

次の2つの理由から、議会として採択した方が町にとって得策と考えます。

1 早期に解決した方が町の無駄な出費は少なくて済む

損害賠償請求訴訟の前回公判後に町の弁護士が語ったところによれば、判決は来年2月頃の見込みとのこと。そうなれば、請願不採択派が主張するように公判への影響を考慮する限り、あと1年間は広域に向けた取り組みが一切できないことになる。

22年度予算に計上した1億円を超える焼却炉の補修費を、今後遅れた年数だけ無為に捨て続けることになる。伊東議員が言うように、早期に解決した方が町の無駄な出費は少なくて済む。

さらに、町が負けると1億4800万円を支払わなければならないというが、常識で考えればそんな判決が出る訳がない。仮に負けたとしても、数百万円＋弁護士費用程度であろう。これを惜しんで、毎年1億円を超える炉の補修費を払い続けることの愚を理解できない議員がいるというのは、驚きであり、町の恥でもある。裁判に負けたくない弁護士の言い分を鵜呑みにして、もっともらしい理屈をこねる議員は、普通なら次の選挙で落選するはずだが。

2 町長交代後の2市との関係修復を考え、議会は町長と決別の旗を掲げよ

請願不採択派は、町長を弁護するのではなく町費の出費を心配しているのだと言いながら、実際は町長を擁護し、結果的として町長と議会とが一体となって2市と対決する構図をつくってしまっている。この責任は重大である。

葉山町のような小規模自治体が単独で行政運営をするのは難しい。現に、ごみ処理だけでなく、広域防災や医療体制の問題がある。先日の新聞報道によれば、横須賀市長はこの訴訟問題を理由に、広域防災に関して葉山町との協議に否定的な発言をしている。

町の利害をもっと長期的に、森町長後を視野に入れて考えれば、今は町長と町議会は全く別の行動を取っておくことが得策である。即ちこの際、町長と議会がまったく別の判断をしていることを示しておくことで、町長交代後の2市との関係修復を有利に導く道を残せるからである。

さらに言えば、訴訟に勝つことは弁護士にとっては最善だろうが、町にとって勝って得られるものは、僅かな金子と引き換えの2市との修復し難い不信の関係だけである。損得でいえば、負けても勝っても得はなく、将来のことを考えれば勝った方がむしろ損で、もっとも良いのは町議会が間に入る形で和解に持ち込むことだ。

広域化を求める町民の請願を採択することを通して議会の良識を示すことこそ今必要なことであり、町にとって最悪のシナリオは、議会が非常識な町長に加担し、その結果裁判で勝ってしまうことと理解すべきである。

請願を採択したほうが町にとって得策と考える理由

傍聴者の眩き 4

伊東議員、加藤議員、金崎議員、鈴木知一議員、待寺議員へ

本日はごみ特委員会で頑張ってください有り難うございました。請願の枝葉の部分にけちをつけ、否決となったことは誠に残念であります。

みな様にご自身の意見を覚悟をもって述べられたことは、傍聴者を通じて町民の方々に伝えられると思います。議員として「町長とは考えを異にする。」という姿勢を、町民や他市町村の方々に鮮明にされることも大切なことだと思いました。

終了後、伊東議員、待寺議員にお聞きした件がどうしても腑に落ちません。

現在、葉山町にとってごみ財政が**最大のがん**であることは誰もが認めるところであります。

ところが部長以下の面々が「H23 から戸別収集する」議会で述べていますが、どこかで審議され、決定されたのでしょうか？

現在 1 箇所のごみステーションで約 20 軒分まとめて集めていますが、それを一軒一軒集めるということは、大変な時間と労力です。

すなわちお金、町民の税金を使うことです。どんなメリット(特に町財政の見地から)があるのでしょうか？

帰りに廊下で部長に会いましたので、お聞きしたところ「それが今と同じ費用でできるんですよ。藤沢でもやっています。」とにこにこ話されました。「今の金額をいかに減らすかを議論しているのに、同じは無いですよ。数字の裏付けが無ければ町民は納得しませんよ。」と言ってきました。誰もそんなサービスを望んでいませんし、小手先の思いつき案では町民の支持は得られないと思います。画期的にごみ処理費が減らせるという案以外は受け入れることはできず、協力もできません。

これが町民の素朴な意見であると思います。

他にカラスの被害を心配する声もありました。

傍聴者の呟き 5

もう 1 つ驚きの発言。請願、陳情の報告文案について、案文作りを正副委員長に一任することが決まったあと・・・

畑中議員： 委員長に、本会議で報告する文案が裁判に使われる可能性があるので、裁判に影響しないような文言にしろという趣旨の発言。

2市1町と広域とのごみ処理経費の比較を求める陳情は趣旨了承されましたが、その「2市1町」という文言が何とかならないか・・・と発言されていて、傍聴席では、驚きを通り越し、ため息がありました。

議会に対する町民からの願いに対し、信じられない議員の発言です。

議会の予定

3月8日(月) 一般会計 土木費、教育費の審議

各特別会計審議

町長に対する質問のまとめ、町長への通告

9 日(火) ごみ問題特別委員会 午後 1 時半から

10 日(水) 総務建設常任委員会 午前 10 時から

特別職員の給与関連の条例改正(町長など)

修正案が出ています

議会運営委員会 総務建設常任委員会終了後

11 日(木) 教育民生常任委員会 午前 10 時から

(浄化センター委託協定の変更の否決を求める陳情など)

12 日(金) 予算特別委員会 午後 1 時半から 町長に対する質問

予算案採決

15 日(火) 生活排水に関する特別委員会 午前 10 時から

議員定数及び報酬検討特別委員会 午後 1 時半

(3 名減か 1 名減かの攻防戦)

18 日(木) 本会議 22 年度予算案採決

19 日、23 日、24 日 一般質問予定

一般質問終了後、各委員会からの付託案件の報告、採決。

ここで、「ごみ広域化」の請願の採決が行われます。

以上が議会の主な予定です。赤字が傍聴のお誘い、緑はトピックスです。

以上、傍聴速報でした。